

議案第 15 号

令和 2 年度板橋区登録文化財の決定について
上記の議案を提出する。

令和 3 年 3 月 11 日

提出者 板橋区教育委員会教育長 中川 修一

令和 2 年度板橋区登録文化財の決定について
東京都板橋区文化財保護条例（昭和 58 年板橋区条例第 16 号）第 4 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり新たに文化財を登録する。

記

- 1 板橋区文化財として新たに登録するもの 3 件
 - (1) 有形文化財（歴史資料） 1 件
梅樹堂師匠大野時長の碑
 - (2) 有形文化財（歴史資料） 1 件
招魂之碑（明治 35 年陸軍板橋火薬製造所爆発事故）
 - (3) 無形文化財（講談） 1 件
渡邊 孝夫（芸名：神田 松鯉）

（提案理由）

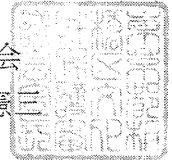
板橋区文化財保護審議会から、板橋区登録文化財の登録について答申があったため、これを承認し、文化財を登録する必要がある。

令和3年3月1日

東京都板橋区教育委員会 様

板橋区文化財保護審議会

会長 松崎 憲三



板橋区文化財の登録等について（答申）

令和2年11月2日付2板教生第388号で諮問のあった標記のことについて、板橋区文化財保護審議会で本日令和3年3月1日に審議した結果、下記のとおり意見が一致したので答申します。

記

- 1 板橋区文化財として新たに登録するもの 3件
 - (1) 有形文化財(歴史資料) 1件
梅樹堂師匠大野時長の碑
 - (2) 有形文化財(歴史資料) 1件
招魂之碑(明治35年陸軍板橋火薬製造所爆発事故)
 - (3) 無形文化財(講談) 1件
渡邊 孝夫(芸名:神田松鯉)

令和2年度板橋区文化財保護審議会 答申内容一覧

新たな文化財の登録・指定

番号	名称	所在地または居住地	所有者・管理者または保持者	種類	内 訳	来歴・内容及び諮問理由
1	梅樹堂師匠大野時長の碑 (ばいじゅうど うししょうお おのときなが のひ)	徳丸六丁目 34番3号	宗教法人北野 神社	有形文化財 (歴史資料)	1基	この石碑は、徳丸北野神社において天保期から明治初年に営まれた寺子屋「梅樹堂」の師匠大野時長の事蹟を顕彰したものである。大野時長は、徳丸北野神社の宮司であり、現宮司の政時氏の高祖父にあたる人物で、明治2年(1869)に没している。碑は、時長没後の同5年11月5日に時長の息子である大野時信の時代に建てられており、梅樹堂で学んだ子弟81名の名前が刻まれている。子弟の範囲は、梅樹堂があった徳丸本村・脇村を中心に近隣の西台村、下練馬村、下赤塚村に加え、上富村(埼玉県ふじみ野市)にも及んでいる。また、碑文には「瘞退筆…」と刻まれており、使い古した筆を土中に埋めたことにはじまる筆子塚にもなっている。この石碑は、江戸時代末期の板橋区内の村における多様な寺子屋教育の状況とその子弟の分布範囲などを知ることができる重要な歴史資料である。
2	招魂之碑(明治35年陸軍板橋火薬製造所爆発事故) (しょうこん のひ(めいじ さんじゅうご ねんりくぐん いたばしかや くせいぞう しょうはつ じこ))	加賀一丁目 10番2号	板橋区土木部	有形文化財 (歴史資料)	1基	「招魂之碑」は明治36年(1903)、「板橋火薬製造所有志一同」によって建立された記念碑で、現在区立加賀西公園(加賀一丁目10-2)内に位置している。素材は粘板岩、像高は239cm、幅は最下部76cm、最上部52cm、厚さ最下部18cm、最上部7cmである。正面には「招魂之碑」の揮毫、背面には銘文(撰者、揮毫者不詳)が刻まれている。建碑のきっかけとなったのは明治35年7月24日に火薬製造所で発生した無煙火薬の爆発事故で、消火活動の中で技手1名、職工9名が死亡した。事故から一年となるのに合わせ、死亡した技手と職工を追悼するために、製造所有志が永代回向料を集めて「招魂之碑」が建立された。事故の原因となった無煙火薬は当時フランスで開発された最新の火薬だったが、国内では爆発事故が多発し安全性向上の研究が課題となっており、明治36年度、陸軍は板橋火薬製造所構内に火薬研究所を新設した。現在、国指定史跡、区登録記念物「陸軍板橋火薬製造所跡」内には、火薬研究所時代の建造物が現存している。当碑は国内における無煙火薬の生産開始期に発生した爆発事故と、その犠牲者と記憶しようとする製造所職員の建碑意識を理解することができるほか、国内の火薬製造および科学技術の展開、そして加賀地域の歴史・文化を理解することができる重要な文化財である。
3	講談 (こうだん)		渡邊 孝夫 (芸名: 神田 松鯉)	無形文化財 (講談)		「講談」は、平成14年に重要無形文化財に指定され、現在、渡邊孝夫氏を保持者として認定。渡邊孝夫は芸名を神田松鯉といい、昭和17年9月28日生。多様な演目それぞれの機微を汲み取り表現する技芸に定評があり、その話芸は高く評価されている。渡邊氏は伝統的な講談技法を、講談の技法を正しく体得し、かつ、これに精通しているとともに、長編連続物の復活や継承に積極的に取り組んでいる。また、後進の指導・育成にも尽力している。

